

終わりの日の世界規模リバイバル

2007年11月2日 アシュル・イントレーター

昔、私は「二回目のペンテコステ」という記事を書きました。使徒2章に記録されているリバイバルを黙想しながら、シモン（ペテロ）がヨエル書の預言の成就であると説明している事に注意しました。

使徒行伝 2:16-21

これは、預言者ヨエルによって語られた事です。『神は言われる。終わりの日に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る。その日、わたしのしもべにも、はしためにも、わたしの霊を注ぐ。すると、彼らは預言する。また、わたしは、上には天に不思議なわざを示し、下は地にしるしを示す。それは、血と火と立ち上る煙である。主の大いなる輝かしい日が来る前に、太陽はやみとなり、月は血に変わる。しかし、主の名を呼ぶ者は、みな救われる。』

第1世紀のユダヤ人信者の共同体で起こった事は、ヨエルの預言で書かれているすべての側面を成就させていません。一つの問題は、天からの注ぎの規模です。ヨエルは、世界規模の注ぎであると語っています。「すべての肉なる者たちに」エルサレム一地方だけではありません。もう一つの問題はタイミングです。「主の大いなる輝かしい日が来る前に。」その「日」とは、イエシュア（イエス）の再臨の時です。第1世紀のリバイバルは、キリストの第一の降臨直後に起こった事であり、このリバイバルは、主の再臨の直前に起こるのです。

では、一体ペテロが次に述べた事の意味は何でしょうか。「これは、預言者ヨエルによって語られた事です。」彼が言わんとしている事は、エルサレムで彼らが経験した同じ注ぎを、終わりの時にも起こり、それは世界全体を網羅するのです。彼らのはキャンプファイヤーでしたが、それが、いずれは森林火災となるというのです。それは同じ火ですが、異なった次元です。同じ経験ですが、異なった規模とタイミングです。

使徒2章では、福音書の時よりも、より大きな聖霊の力が注がれています。例えば、長血を患う女がイエシュアの衣服の端を触って癒やされた時、霊的な力が電気のように主から女性へ流れました。しかし、120人がシャヴオット（ペンテコステ）の朝集まった時、彼らはあたかも、核爆発の「臨界質量」みたいなものです。それはまるで、原子力を、長年電気を使ってきた後に発見したようなものです。

終わりの日のリバイバルでの注ぎは、霊的な力のまったく別の次元になるでしょう。原子力には二つの力があります。一つは核分裂です。それは原子核が分裂する事に基づいています。もう一つは核融合です。それは原子核が融合する事に基づいています。第1世紀のリバイバルは核分裂のようで、弟子達はエルサレムから分散して、世界中へ宣教に出かけました。最後の世紀のリバイバルは核融合のようで、それは、イエシュアをエルサレムに戻し、地上に主の御国をうち立てる事なのです。原子力の核融合は核分裂よりも強力です。同じように、終わりの日のリバイバルは、最初のペンテコステよりも強力なのです。

注：終わりの日の、ユダの指導者達の事を、「炉」（ゼカリヤ 12:6）と呼んでいます。古代ヘブライ語の「炉」は、現代ヘブライ語の「原子炉」の語源となっています。

終わりの日のリバイバルは、より巨大な力が働き、それは、イスラエルの、メシアニック・ジューの残りの者達と密接につながっています。それはシャウル（パウロ）によって語られています。

ローマ書 11:12, 15

もし彼らの違反が世界の富となり、彼らの失敗が異邦人の富となるのなら、彼らの完成は、それ以上の、どんなにかすばらしいものを、もたらすことでしょう。

もし彼らの捨てられることが世界の和解であるとしたら、彼らの受け入れられることは、死者の中から生き返ることではなくて何でしょう。

終わりの日のリバイバルは、使徒 2 章の時より、単に強力であるという事ではありません。それは、それ以上のものとなるのです。第 1 世紀のリバイバルは福音を世界中に広める火付け役でしたが、最終世紀は、聖徒達の死者からの復活をもたらすのです。「死からいのち。」

使徒 2 章とローマ 11 章を比較して、エルサレムにいるメシアニック・ジューの共同体、つまり「残りの者達」は、ペンテコステのリバイバルの時と同じく、終わりの日のリバイバルの触媒となります。

なぜ、この世界規模のリバイバルの中心に、エルサレムにいるメシアニック・ジューの残りの者達が必要なのでしょうか。なぜ、単純に注目点や中心地なしに、世界中に聖霊の注ぎが起こるという事にはならないのでしょうか。答えは、終わりの日のリバイバルの目的こそ、イエシュアの再臨を促進させるものだからです。主はエルサレムに帰って来られます。そういうわけで、リバイバルはエルサレムに中心を置かなければならないのです。第 1 世紀の時、力はエルサレムから四方へ送り出されました。最終世紀は、エルサレムに力を戻していくのです。

また、なぜ世界規模のリバイバルがメシアニック・ジューとつながっていなければならないのでしょうか。単純に、世界中の教会への油注ぎで、「ユダヤ人もギリシャ人もなく」（ガラテヤ書 3:28）のようにならないのでしょうか。答えは、イエシュアご自身が約束された事で、エルサレムにいるユダヤ人が、主を王として受け入れる準備が整った時にしか、戻らないとおっしゃったのです。（マタイ 23:37-39）終わりの日のリバイバル時、主の再臨を促す際、エルサレムのユダヤ人信者がいなくて、主を受け入れられない事がありえるのでしょうか。

したがって、世界中の信者がイスラエルにいるメシアニック・ジューの残りの者たちのために祈ることこそ、世界のリバイバルとイエシュアの再臨のための祈りでもあります。

イスラエルにいるメシアニック・ジューの残りの者たちのための、国際的な祈りの注目点は、すなわち、世界のリバイバルとイエシュアの再臨です。メシアニックの残りの者達、世界のリバイバル、そしてイエシュアの再臨はすべてつながっており、相互依存しているのです。

この「残りの者達ーリバイバルー再臨」のつながりの、もう一つの証明はペテロが引用したヨエルの預言から見つかります。実際、使徒2章はこの預言の最後の箇所だけ除いて全部記録されています。それは世界中の、終わりの日のリバイバルは、ある特定の条件の下起こることを説明しています。

ヨエル 2:32 (ヘブライ聖書では 3:5)

シオンの山、エルサレムにのがれる者があるからだ。その生き残った者のうちに、主が呼ばれる者がいる。

イスラエルのユダヤ人のうち、ホロコーストやイスラム聖戦、また終わりの日の艱難で生き残った者に、信仰を持つメシアニックの残りの者たちがいます。「シオンの山、エルサレムにのがれる者があるから」主が彼らに対して「呼ばれる」事により、終わりの日のリバイバルの条件が整うのです。彼らとその位置につく時、大いなる油注ぎがすべての肉なる者たちへと解き放たれるのです。それゆえに、我々が「とどまっている、残りの者たちのために祈れ」のために召命されている一つの理由なのです。

注：この終わりの日の世界リバイバルは、イスラエルで2008年5月に予定されている「召命」の中心テーマとなります。それは、カンサスシティの IHOP、God TV や、イスラエルのメシアニック・ジューの共同体、そして世界中の重要な預言的指導者達との協力によって企画されています。このイベントのために、どうぞお祈り下さい。